

一月二十四日は、今年最初の身代地蔵の日です。

じつぞ、お参りください

# 慶蔵院寺報 公孫樹

2026年1月発行  
第168号  
浄土宗慶蔵院  
伊勢市小俣町元町1211  
TEL 0596 (22) 3726

明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。



山村御流の生け花

画 山寄淑子

十二月二十四日、地蔵堂の開帳の日には、地蔵講メンバー六名に加えて十八名の参加がありました。十一時から順次、「銀杏炊き込みご飯のおにぎり」と「豚汁」を食べていただきました。午後一時から、幸森如さんからのお話。「私の言うようにやってみてください」とセルフセラピー（この表現が適切かどうか分かりませんが…）の実践です。「左手の上に重ねた右手で、やさしく、思いをもって、ゆっくりとなでみてください。そして左手におこる変化を自分で確かめてみてください」。

すぐに反応がありました。十月から参加されている山本さん。「手のしわが消えました。つるつるにならってきました」と。

幸森如さんは、言葉を、素直に受け入れる心を大切にされています。このことは、健康になりたい…、もっとよくなりたい…という、受け手の気持ちと、助けて上げたいという幸森如さんとの通り合いをうみだし、不離仏のように離れ離れにならないことで、自己治癒力が發揮されていくように思えます。

一時半からは、地蔵講の皆さんとの「西国三十三番」の御詠歌がはじまり、御詠歌をいただきながら、お加持は、四時過ぎまで続きました。

参加者の一人から、「主人を」へしてから身体の不調が続いている」との訴えがありました。幸森如さんが受け止められ、語られる言葉に、彼女は涙を流され「また来たい」と笑顔で帰っていましたとのことです。また痛みに悩む方には、「まず笑顔になつて、心を軽くするようにしましよう」と勧められ、お加持がすすみにつれて「顔色が明るくなってきた」と参加者が日々に応援していたといいます。参加者みんなでつくりあげる場のエネルギーのようなものも、大きな力となっているみたいです。

一月二十四日、ぜひお加持の体験をされるよう、お勧めします。

お葬儀ができた場合は、何時でもかまいません、最初に、慶蔵院にご連絡ください。電話 22-3726

# 1月の行事予定



7日(水)	写経会	午前10時～ 本堂にて
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一會館にて 参加費 1回 1000円
12日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費 2000円+花代
14日(水)	・羊毛フェルト教室 講師 monmo先生 ・男性詠唱隊 ・落語会「いちご亭」	午後1時～3時 一會館にて 参加費 1500円 午後1時半～3時 本堂にて 午後7時～ 一會館にて
21日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 本堂にて 参加費 500円
24日(土)	祈願とお加持・地蔵堂開帳	午前8時頃 祈願は10時～、お加持は1時～3時
28日(水)	戦没者慰靈・平和の鐘 地蔵講	午前8時頃 午後1時半～
9・23日 (金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後7時～子ども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費 大人500円 一會館にて

## 墨子を知っていますか？

中国古代の思想家で、生年生地没年も定かでない人物ですが、紀元前五世紀後半から前四世紀前半、春秋戦国時代に活躍した人で、孔子や老子、孫子と同時代の人です。お釈迦様もほぼ同時代に活躍されました。

さて何を訴えたかというと、「兼愛」と「非政」です。兼愛とは、自己と同じように他者を愛すべきことで、我と人の分別を去つて、広く人のためを考える博愛主義だと言えます。「汝の敵を愛せよ」というキリストの教えにも似ています。晨朝の礼拝儀「至心に発願す」の「外は怨親平等に（恨みのある人や親しい人の分け隔てなく）同体大悲（おもいやり）の愛を以つて他に対し得らるるやうに」にも通ずるところがあると思います。

次に非政とは、侵略戦争をするなど言つことで、すべての人間が全体として繁榮していくとする利を考えて、他国を攻撃することを排斥する平和論を唱えました。一人の人間を殺害する一つの刑罰が下され、十人を殺したら十の刑罰が下され、百人を殺したら百の刑罰を下されるが、他国を攻めて何十万、何百万の人を殺しても刑罰が下されず、かえって榮誉であることに言われる。これはどう考へてもおかしいではないかと。人類は、果たしていつこの矛盾に目覚めるのでしょうか。誰も罰することができないなら、みんなで結集して、神仏に天誅を加えてもううよう、お祈りしようではありませんか。

一句「世の中は 地獄の上の 花見かな」 一茶  
(文 麻畑公生)

## 慶蔵院豆知識 part2

32



## 住職の健康回復への道のり(47)

十一月十七日に行つた一十四時間ホルター心電図結果が出ました。前回と比べると、房室伝導障害が「なし」から「一度」と後退していったのです。四年前は、「いつ心臓麻痺がおこるかもしない」という数値、「3高度」だったのですから、良くなっているのです。が、今回、なぜ後退するに至ったのか自省しなければなりません。

石垣院長から、こんな言葉をいただきました。

「腰の痛みも、右足の痛みによる歩行困難も、すでに血流が悪くなつた結果でした。その時には、腰や足の部分だけの血流の滞りではなく、心臓の血流も悪くなつてゐるのであります。身体は全部つながつているのです。疲れを残さず、睡眠をよくとするにはしなければなりません。新たな教訓としてください」と。

前回、この欄で紹介したように、八月末の華展での二日間立ちっぱなしによる腰痛、秋の銀杏洗い、本堂での五針縫うケガ、一週間続いた歩行困難等、四ヶ月の積み重ねが、心臓に負担をかけていたことがわかりました。血行を良くして痛みを取ることだけを考えて来ましたが、今後は、身体全体に力を配るよう心をつけて精進努力してゆきます。

夫婦石 一人で拝む初日の出

(「知恩」誌一冊毎「柳壇」に掲載)  
奥田悦生

涅槃会、お参りください

1月十五日(日)

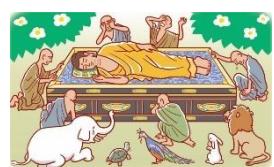
午後一時から  
慶蔵院本堂にて

法話 安井隆同上人

茨木市錢原 乗雲寺住職



12月21日、慶蔵院で日本語を勉強したピンミン君、アインちゃん夫妻が訪問してくれました。



多くを語らず、  
心静まる一言を

1月の掲示板

お釈迦様の言葉を、自由訳して、自分はこのように受け止めて、これから自分の糧にしたいと思い、いただきました。

自分の主張を、何とか届けたいとどんどん語り説明しようとする。独りよがりの言葉となつてしまひ。戒をこめていただいた「心静まる一言」は、自分の心を静める言葉でなければならない。よく咀嚼された言葉にならなければならぬと思つ。

ご寄付をありがとうございました!!



十一月一日に中西幸一さんを通じて、三木徹さんグループのフリーマーケット収益金三九七〇円をご寄付いただきました。身代地蔵さんへの寄せとさせていただきました。



## 一ある檀信徒の

## お加持体験一

古郊の山中で出合った山伏に  
お話をかけられた。

「腰が悪そうですね。お加持させて下さい」と。

手を合わせひざまづく私の背中に

何がこゝれていった。

お話を聞こえた。

何をしてこられたのかはわからぬ。

言えることは、

以来、腰痛を感じてはな

といふことだけ。

格セ

二十四日、「」祈祷に参られた一人の方の「願い」とは「」首の痛みを取つて欲しい」というものでした。祈祷を終え「銀杏名印」をお渡しながら、「」首ほどのようには痛いのですか」と声をかけました。「上下あると」と「」と痛みが走ります」とのこと。「」ちょっと触りますよ」と手首から親指の付け根を指で探つていきました。

以前、いくつかの体験があります。長靴を履いて長い時間畑で仕事をしたところ、アキレス腱が痛くなり、翌日の夜になつても痛みが消えません。台所の椅子に座つて、アキレス腱から足の裏を指先で押さえていきした。親指の付け根のあたりに指先かどいたとき、激痛がはしりました。そのとき、ここを押し続けて、この痛みが取れた時、アキレス腱の痛みは取れると思ったのです。五分間ほど、痛みに堪えて押し続け、その痛みが消えた時、はたしてアキレスけんの痛みも同時に取れていたのです。

もう一つの事例です。こちらは塾の卒業生で、高校の陸上部に入っていた男子生徒が、「足の裏に痛みが出て、走ることができない」と訴えてきました。わからないまま」「」をしました。三回目の時です。土踏まずの横から指を入れました。私の指先に何か「ツラツラ」のようなものが感じ取れたのです。「これ痛いか」と聞くと「痛い」との返事。「よし、我慢しどれ」と私はその「ツラツラ」を指先で押し続けました。「」。そんな音がでたわけではありません。しかし私はそう感じたのです。そのとき彼の足裏の痛みは消えていたのです。

さて地蔵堂での続きです。思った通り、指先に突起を感じました。「痛いですよ。我慢してください。」指先から突起が消えたと感じ、「どうですか」と尋ねると「痛くありません」との返事が返つてきました。これは幸森如さんのお加持とは違いますが、祈祷の中にお加持もあり、お加持の中に祈禱もあるように思えております。